



ニュージャーシー 補習授業校通信

穀雨と教育

四月二十日は二十四節気の穀雨にあたります。種まきの時期の雨は欠かすことができません。農耕が日本の生活の基盤となっていることを穀雨はよく表しています。

さて、穀雨という和教育という言葉を連想します。優れた種や苗を育てるには肥料だけでなく、水が必要です。

その水が児童、生徒にとっては本校の教育であってほしいと思っています。

優しく静かに湿り気を与える雨、時に激しく打ち付けるような雨と同じように、児童、生徒の様相に応じて自在に変化しながら教育ができれば何よりです。その様な授業場面を具体的に十三日の授業から見てみましょう。

小学部一年生

小学部一年生は入学したばかりなので、特に子ども達には体験を通して日本語を「使え

た、できた」という達成感を与える授業が有

効です。



上の写真は、一年生が学習した自己紹介の仕方を実際に補佐室に来て試している様子です。自分の名前をはつきりと伝える。簡単なようですが、校長先生

や教頭先生を相手にして、一年生は緊張したり、恥ずかしがったりしていましたが、きちんと自己紹介できたことで、さらに日本語を勉強しようという気持ちが高まりました。

中学部二年生

中学部二年生数学の授業では多項式の計算を学習しました。二学年にな

り、計算式に使われる文字の数が増え、計算が複雑になります。生徒が計算することに難しさを感ずることも多くなります。

生徒が間違えやすいのは上の式のような、減法の計算です。括

$$(4x+6y)-(x+6y-5) \\ =4x+6y-x-6y+5 \\ =3x+5$$

弧を外すとき、

引く数の符号が変わりますが、符号を変えずに計算してしまふ場合があります。ですから、個々の生徒の様子をよく見て教えて



いく必要があります。写真でわかるように、先生は生徒一人一人の学びの様子がよくわかるように机の配置を工夫し、よく様子を見て机間指導をしています。

雨水がその時々に応じ自在に変化するよ
うに、授業も生徒の様子に応じ自在に変化する
必要があります。

今日は小学部一年生と中学部二年生の授業の様子を紹介しました。これからも本校の授業の様子を伝えていきます。

ご家庭でもぜひ、授業の様子を話題にしてください。

第二号

平成三十一年
四月二十日発行

